

## 混沌としている地方議会

世界のトップレベルのパフォーマンスに酔いしれた9月の世界陸上であったが、いっぽう地方都市では市長が物議を醸している。

沖縄県南条市の古謝市長がセクハラ行為を認定され、4度にわたる不信任決議案が可決されたが「ハグして終わり、それだけ」と否認を続けている。女性からハグしてきたと主張しているが、その被害者を脅かした音声が公開されているにもかかわらず辞任の兆しはない。

静岡県伊東市の田久保市長、学歴詐称問題を発端にした混乱で市議会は解散、選挙後再び不信任決議案が採択されるのか注目を集めている。否決には少なからず市長支持派の7名の議員の当選が必要らしいが、支持派も離れつつあるようだ。

群馬県前橋市の小川市長は男性職員とのホテル密会が発覚し、公用車利用まで報道されている。男性職員との男女関係は否定しているが、密会場所が悪すぎる。自らの進退は第三者に相談するらしい。

事実はどうなのか私たちには報道範囲しか知るすべはない。しかし、三市町の往生際の悪さに政治家としての資質に疑いを持たざるを得ない。セクハラはハグだけかも知れないが、なぜ被害者を脅かしたのか。男女関係は国民民主党の代表の件もあるのでどちらでも良いが、密会に公用車使用はいただけない。学歴など問題にしていないが、弁護士と結託して金庫に保管して言い逃れ続けているのはどうか。議会は地方であっても立法機能を有しているにもかかわらず、市長の低レベルのトラブルで機能停止している。私たちは、スターや医者、政治家などに高貴な人格も求めてしまう。少なからず、せめて庶民感覚は持ち合わせて欲しい。そういう意味で言えば、三市長に人としての資質が問われていると言っても過言ではない。

議会が正常に機能しているにもかかわらず、何か疑問を感じずにはいられない事例もある。

愛知県豊明市議会が「スマホ1日2時間以内」と言う条例を本会議で可決した。仕事や勉強、家事以外でのスマートホンなどの使用は、1日2時間以内を目安にするよう促す条例だが、この条例に罰則規定はない。本来法律とは罰則規定を伴うはずだが、それが明記されないということは強制力はなく、道徳の範疇であり努力目標として存在する。豊明市役所には市民から賛否両論の意見が日々業務に支障があるほど寄せられていると言う。

スマホの長時間使用は、確かに健康面、家庭環境、子どもの健全な成長などに問題があることは理解できる。しかし、この議会の立法レベルに地方政治の質的問題を懸念してしまう。

「誰も積極的に守らない条例」にならないことを祈る。

(丹羽 豊)